2018 年 10 月 3 日

『国連の目指す平和』
青山学院高等部の朝の礼拝でのメッセージ

山本　和

皆さん、お早うございます。

今日は国連（国際連合）の目指す平和について私が日頃考えていることをお話したいと思います。第二次世界大戦の終結を展望できる状況になったとき、連合国のリーダーたちのなかに二度と戦争を起こさないようにとの願いから、国連を創設する運動が起こりました。1944 年ころのことです。それが実をむすび、国連は 1945 年に設立されました。国連本体だけでなく、国連システムを構成する多くの国際機関が国連のもとに協定を結び相次いで誕生しました。わずか 2~3 年の間に壮大な国連システムが築かれたのです。そして今では、世界の殆どの国が国連に加盟して国連の枠組みの中で、平和の問題を解決しようとしています。こういう世界的な制度構築は、如何に多くの人が平和への切実な願を持っていたかを物語るものだとも言えるでしょう。世界が動くときがあるのです。国連システムに共通する目標は平和な世界を築くことです。国連憲章に示された国連の目的は、国際の平和と安全を確保し、あらゆる人の人権を尊重し、そして貧しい国々も含めて豊かな社会と経済を築いて行くということです。

国連総会で 1948 年に採択された「世界人権宣言」は「全ての人間は生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。人間は理性と良心を授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」と唱っています。また、ユネスコ憲章の前文は「戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中にこそ平和の砦を築かなければならない」と基本的な考えを述べています。これらの考え方は、一言でまとめれば、国連は「平和を実現するために最大限の協力をする」ということを加盟国、そしてまた世界の国々に求めているのです。

聖書は、主イエスが山上の説教で「平和を実現する人々は幸いである。その

人たちは神の子と呼ばれる」と教えられたと記しています（マタイ 5-9）。ここで言う「平和を実現する」という場合の「平和」は単に、戦闘状態がないというだけでなく、人権が守られ、公平で、差別がなく、貧困から解放され、安心・安全な世界をつくることを包括した概念だと理解すべきでしょう。なぜなら、神の義、神の恵みがもたらす平和は、「神を愛し、隣人を愛する」世界の実現を目指すものであるからです。

このように、国連の目指す価値観は聖書に示されたキリスト教の価値観と一致すると思います。国連憲章の起草に多くのクリスチャンが関わったという要因があるからだという人もいます。しかし私が特に注目したいのは、この国連の価値観は、イスラム教、ヒンズー教、仏教、ユダヤ教など世界の主要な宗教や文化をもつ国々からも支持を得て成り立っているということです。このことは、国連の求める平和の構築は、宗教や宗派、あるいは文化の壁を乗り越える普遍的な「真理」を反映していると言えるのではないかと思います。私は、どこの、いつの時代の人間社会や文化にも、その根底に「善」ないし「真理」、「人間価値＝Human Values」を求める力が働いていると信じています。それこそ真理の神の存在を顕していると言ってもいいでしょう。それは世界人権宣言の「人間は理性と良心を授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」という主張にも現れています。そのことが、国連が求める平和の実現という使命に正当性を与えていると私は考えています。最近国連の平和主義と矛盾する主張が、出てきてとても心配ですが、国連の多國間主義を無視して決して世界的な平和を実現することはできないと思います。

もちろん、どういう場合であれ、「平和を実現すること」は容易なことではありません。不可能に近いと思えることもありますし、現実から遠い目標かも知れません。しかし、それを目指そうとする努力は、平和の実現に向けた努力であり、真理の実現に向けた価値ある働きだと思います。こう考えると、国連の存在とその価値観を大切にする気持ちは、みなさんがこれから生きていくうえで忘れてはいけない、大きな目標と考えていいのではないでしょうか。難しさを乗越えて、平和の実現を目指すという目標を大切にしたいと思います。

青山学院のスクール モットーは「地の塩」「世の光」になることですね。地の塩、世の光になるということは、同じ山上の説教で主イエスが語られた「平

和を実現する人々」になることと、結局同じ目標に向かって歩むことを意味すると思います。それは易しいことではありませんが、そうであればこそ、国連の働きや使命に関心を持って学んで行ってほしいと思います。

（　祈り　）

聖書：　マタイによる福音書　５章９節
　「平和を実現する人々は、幸いである、
　　その人たちは神の子と呼ばれる。」

讃美歌：　２３４A
　「昔　主イエスの　播きたまいし
　　いとも小さき　いのちのたね。・・・』

（2018.10.3. 山本和）